



Faculty of
Science and
Technology
Tokushima University

付加体形成と島弧マグマティズムに関する研究

[キーワード: 地質学, テクトニクス, 地球化学, 地球熱年代学, 古環境学] 教授 安間 了



しんかい6500を用いた南海トラフ潜航調査
(SHINKAI6500 survey to the Nankai trough)



馬匹によるパタゴニアの火山調査 (Horse-riding geological survey in Patagonia)



世界で一番若いオフィオライトの調査(チリ・タイタオ半島ベースキャンプ)
(Geology of the Taitao ophiolite, the youngest ophiolite in the world in Patagonia)



海洋底掘削: パナマ沖での海洋地殻形成過程の研究 (Deep Sea Drilling Vessel
"JOIDES Resolution" off-shore Panama)

内容: 海洋プレートが大陸プレートにもぐりこむ沈み込み帯では、付加作用と火成作用(マグマティズム)によって島弧・大陸地殻が成長していきます。私たちの研究室では沈み込む海洋プレートの年代と島弧・大陸縁辺部のテクトニクス・マグマティズムの関係に注目し、構造地質学的手法に基づいた野外調査、古地磁気測定、地質年代測定、化学組成分析などを通して、これらの関係を明らかにすべく研究を進めています。また、マグマの移動・集積過程を理解するため、各地で深成岩体や火山の調査を行っています。これまでに、西南日本、北欧、ギリシア、チリ、カザフ、イラン、イラク、トルコ、タイなどの国々で現地調査を行ってきました。海洋底で進行しているプロセスを理解するため、JAMSTECやIODPが運用するさまざまな調査船、深海掘削船や潜水艇を利用して、パナマ沖、南海トラフ付加体、チリ海嶺沈み込み帯において、海洋地殻や付加体の形成過程、震源断層直近での擾乱・堆積作用などについて、研究を推進しています。

最近では、考古学者と調査チームを編成し、古代メソポタミア文明を中心として、都市化と都市を取り巻く環境の変遷、古代都市への資源集積過程を明らかにすべく、主に地球科学的なアプローチを用いて研究に取り組んでいます。

分野: 地球惑星科学

専門: 地質学, テクトニクス, 古環境学

E-mail: anma@tokushima-u.ac.jp

Tel. 088-656-7240

Fax: 088-656-7240

